

【研究シーズテーマ】

研修・教育プログラムの開発・評価

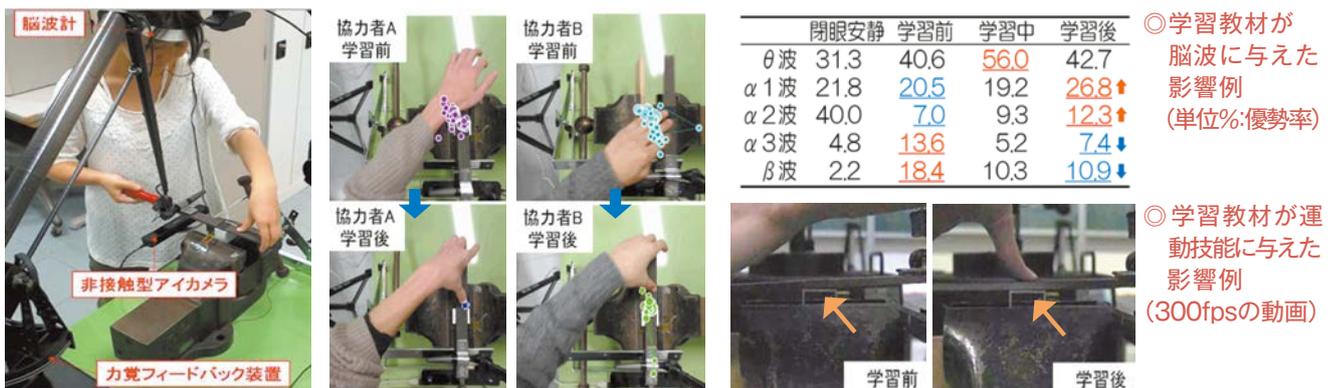
 情報学部 情報コミュニケーション学科 教授 **竹野 英敏**

Keyword
ラーニング教材開発／ユーザビリティ調査／行動・無意識の視覚化


情報学

【研究シーズの概要】

アンケート調査やインタビュー調査を行う際、偽りの回答を収集している可能性があります。回答の裏にある深層心理を探り、真の意味での本音に迫ることも大切です。研修の場でも、学習の効果を明らかにすることは、課題を明確にすることであると考えます。見たもの・触れたもの(学習教材)が、視線や脳波、運動技能に与える影響を測定することによって、本人自身も知らない心の動きを予測し、因果関係の分析、予兆の発見、未来予測を可能にします。



◎技能習得効果の測定方法例 ◎学習教材が視線に与えた影響例

【新規性・独自性・従来研究(技術)と比べての優位性】

- 視線・脳波を測定し、注意・興味の部分を、より視覚化することが可能です。
- 意識・無意識の両面からの診断は、より効果的な教材開発に活かせます。
- 学習による技能習得効果を、25μm精度、300fps動画で明らかにできます。

【産業界での展開・用途】

- 人材育成のための研修・教育プログラム設計の支援
- 人材育成のためのラーニング教材の効果測定
- 人材育成のためのラーニング教材の開発

連絡・問合せ先

 広島工業大学 研究支援機構 〒731-5193 広島市佐伯区三宅2-1-1
 (事務窓口: 研究・地域連携支援部) TEL:082-921-4222 FAX:082-921-8963
 URL <https://www.it-hiroshima.ac.jp/for-research/office/> E-mail kyo-kiko@it-hiroshima.ac.jp